



一般社団法人
日本助産学会
ニュースレター

No.94

The Japan Academy of Midwifery Newsletter

巻頭言

第35回日本助産学会学術集会でお待ちしています。

学術集会大会長（神戸市看護大学 教授） 高田 昌代

今年の幕開けは、新型コロナのこと一色でした。年末の紅白歌合戦も、なんとなくお祭りのではなく、歌番組に終始し、時代が変わっていくのだと感じたのは私だけではないように思っています。

そのような中でテーマとした「助産師として生きる一改革と挑戦」はまさしく、世界規模で変わっていく時代に助産師は何が求められ、どう生きることが問われる、タイムリーなテーマとなりました。テーマを決めた、1年半前には、今の情勢を誰も予想していなかったのですから、「変わる」スピードは想像以上に速いことも思い知らされました。

私たち助産師は、ローカルからグローバルまで、ローリスクからハイリスクまで、そして多くの職種や関連する方々との連携・協働を社会から期待されています。

そこで、本学術集会のプログラムでは、助産師の根底に流れることは何かを問うために、特別講演として「助産師のプロフェッショナリズム」「助産とじねんの時—現代医療と自然のはざままで」、教育講演「助産師のアイデンティティの源流を探る」、そしてシンポジウムとして「助産師として生きる一女性も助産師も愉しくなる助産師の働き方」を企画しています。これまでの知恵をたくさんお持ちの方々からの「リレートーク」も見過ごさないでいただきたいです。

今後の助産師の広がりとしては、シンポジウム「性暴力支援—なにが必要か/何ができるか」では、

当事者として伊藤詩織さんにも登壇していただけることになりました。さらに「予期せぬ妊娠から始まるいのちのケア」、その具体的支援として、ワークショップで「トラウマインフォームドケア」で実践を学ぶ企画があります。地域への広がりとして、シンポジウムでは「継続ケアの本質を探る具現化へのシナリオをつくろう」、「助産師が行うプレコンセプションケア」を企画しています。

なんといっても、実践の科学である助産学では、「わざ」と「研究」です。学会は実践と研究の橋渡しの機会と考えています。そこで、教育講演では、「オキシトシンの働きから創る助産ケア」「乳腺炎ケアガイドライン 2020 最新のスタンダードを学ぶ」、ワークショップでは、骨盤ケアや妊婦の全身を見る、分娩第1期のケア、分娩時のケアと、明日から実践できるプログラムが揃っています。そしてお産は1つとして同じではないことから事例を大事にしていくために「ケアの意味をみつめる事例研究」のワークショップも企画しました。

もちろん、コロナ禍における助産ケアを考えるのにシンポジウムで「ウィズコロナ時代の助産師ヒューマンケア」や「コロナ禍における助産師教育の改革と挑戦」の企画もあります。

日本助産学会の各委員会の活動を踏まえたプログラムも多数で企画しています。

今回の学会では、「女性と共に」を考え、女性や助産に関連する団体のコーナーを設けています。ま

た懇親会がないため、助産師同士の交流も考え「ミッドワイフカフェ」を企画しました。仲間がきっと見つかるでしょう。

プログラムは書ききれないほどです。是非ホームページから、今学術集会企画委員の思いを込めたプログラムを、プロモーションビデオとともにご覧ください (<https://youtu.be/Mp8iqnrpLhg>)。オンデマンドのプログラムは5月5日まで視聴ができます。すべてのプログラムが、アドバンス助産師®

に該当し、修了書も出ますので、ご利用下さい。

本学術集会が、妊産婦とその家族、女性のために、改革と挑戦をしようとする機会になれば幸いです。

最後に、2月中に参加登録いただいた方には、ポケット抄録とノベルティグッズをお送りします。お早めにご登録ください。

では、第35回日本助産学会学術集会でお待ちしています。

社会に向けての助産師活動の活性化

広報委員会の新企画、Facebookへのご意見をお寄せください。

広報委員会

新年を迎えた喜びもつかの間、新型コロナウイルス感染症の第三波の中、臨床、教育、研究のあらゆる場においても大変な状況になっていると推察いたします。

昨年末のコロナ禍の中（11月14日）、私ども広報委員会では委員会ミッションをどのように遂行するか話し合いました。

ミッション3. 社会に向けての助産師活動の活性化
一般の方を対象とした助産師広報企画の作成

女性の声をHPへアップ

このミッションは、理事会と広報委員会とが担当しています。わたしたち助産師は、政策決定の場で発言する機会も増えてきました。だからこそ一層のこと、医療の場、家庭、学校、福祉、働く場など多様なコミュニティに身を置く人々の声を聴く必要が増していると思います。そしてより良い社会づくりに貢献する学会でありたいと考えます。

そこで委員会では当該ミッションの遂行にあたり、一般の方々による＜私から助産師に届けたいメッセージ＞連載を企画しました。

連載を通して、性と生殖、子育てなどの社会問題に対する当事者や関係者の視点を会員にお伝えしたいと思います。

1月号では＜高校生の家庭科から 吉武陽子様＞を掲載いたしました。

この企画を重ねながら一般の方と助産師のパートナーシップを強め、助産師の社会貢献を図っていききたいと存じます。

■会員の皆様からのご提案を募集します。

学会員の皆様から「この新企画に紹介したい声」を募集します。ご意見、ご推薦がありましたら、広報委員会までご連絡ください。

■Facebookの活用について皆様のご意見、ご提案を募集します。

学会公式Facebookは2019年に運用が開始されました。しかし、有効に活用されていません。こちらも学会員の皆様に活用いただきたいと存じます。学会公式Facebookを使って活動したい、活用法への提案がございましたら、広報委員会までお知らせください。

連絡先 広報委員会担当理事 中込さと子
e-mail : snakagomi@shinshu-u.ac.jp

広報委員会特集

<私から助産師に届けたいメッセージ>

高校生の家庭科から

吉武陽子

高校家庭科の保育分野で出生前診断が取り上げられている。取り上げ方は教科書会社によって様々である。

本校の教科書では、新型出生前診断が、「命の選別」を招きかねないので倫理的な問題になっているとされているとし(同じページにはリプロダクティブ・ヘルス/ライツが書かれている。)、対応する資料集では「卵子は老化する？(前略)なぜ35歳を過ぎると妊娠率が急激に低下するのでしょうか？じつは、このころから卵子の質が急激に劣化(老化)するのです。そのため受精・着床能力が落ちるだけでなく、染色体異常などが蓄積されて、流産する率も高くなります。(後略)(河野美香『女の一生の「性」の教科書』講談社)とのみ書かれている。その教科書会社になぜ出生前診断の内容の説明もなく、「卵子は老化する？」だけを取り上げているのか質問をした。その答えは、現場の先生からの要望で「現在芸能人が高齢出産する例も少なくなく、生徒がそれをニュースで見聞きすると出産は遅くても大丈夫だと思う傾向がある。もちろん遅い出産も選択肢の一つかと思うが高齢出産のリスクもまだまだあるのでそのリスクを生徒に知って欲しい。」というものだ。

教員の捉え方や問題意識、教え方などにより、内容が変わったり出生前診断について教えない教員もいたりするのではないかと思った。その教科書会社には、卵子の老化を載せるだけでなく、せめて出生前診断の内容や問題点、受ける際の心構えなど載せて欲しいと要望した。

他社の教科書・資料集には『出生前診断とは、妊娠9週～22週頃に行われる「胎児に奇形や病気、

染色体異常がないかどうか」を調べる検査の総称』で、大きく分けると5つの方法：超音波検査法、母体血清マーカー、羊水検査、絨毛検査、新型出生前診断(内容説明はない。)がある』とし、出生前診断のメリット・問題点をあげ、出生前診断を受ける前の心の準備や医師などへの相談、事前にパートナーとしっかり話し合うことの必要性が書かれている。

私の授業をどうするか。私自身、エコーの検査で子どもが18トリソミーの可能性があるとわれ、羊水検査を悩んだけれども行わず、心室中隔欠損があったので出産時の態勢を整えてもらい産んだ経験がある。6か月の命であったが、自宅にも帰れ、兄弟とも一緒に過ごすことができた。その後、縁あって茨城キリスト教大学の渋谷先生と「玉響」という子どもを亡くした親の集いを始めた。また、茨城キリスト教大学の看護学生に私の出生前診断の経験をお話しさせてもらっている。そんな中、昨年度より高校の家庭科を20年以上ぶりに教えることとなった。しかし、前述のとおり出生前診断の教科書の取り上げ方に唖然とした。せめて自分の生徒だけでも伝えておきたいことがある。日ごろから生徒たちにいろいろな学びや問題をつなげて考えようと言っている。出生前診断につながることは、例えば、食物分野のゲノム編集、社会保障分野の社会保険や障がい者福祉。保健では、人工妊娠中絶を学び、保健の教科書には出生前診断について載っていないが、先生によっては取り上げている方もいる。50分の授業で出生前診断の説明・新型出生前診断についての現状と問題点、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、選択的人工妊娠中絶、母体保護法…私や友達

の体験と照らし合わせての出生前診断のメリット・問題点…盛りだくさんだが、生徒たちは真剣な面持ちである。

授業後のアンケートでは、出生前診断のメリットとして「前もって知れるから生まれてからの治療の準備や心の準備ができる。」や問題点として「命の選別につながってしまう。」とあげていた生徒が多くいた。他に「事前に心の準備や産まれてくる子どもの準備ができる。本当に自分のことなのか理解できないかもしれない。(3年女子)」,「万が一、障害があると分かった時に、事前準備ができる。私は絶対に出生前診断を行うべきではないと思う。(2年男子)」,「障がいのある子供が生まれることを予想することができる。授かる命を殺めるという感覚が夫

婦への精神的負荷になる。(2年男子)」など、自分のこととして考えている生徒,一般的な話としてとらえている生徒,様々であった。

私は、家庭科の役割は生きる力をつけることであると思っている。その一つは、一人で生きていくのではなく、困った時、適切な場所・人に助けを求めること。出生前診断では、一人で悩みインターネットの不確かな情報に惑わされるのではなく、信頼して相談できる医師・助産師・看護師・カウンセラーなどがいることを伝えている。

私の手から離れた生徒たちが皆さんを頼っていくと思います。どうかよろしく願いいたします。

ICM募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。ICM 支援のための募金を常

時受付けております。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における

助産知識の発展を支援する募金です。一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

学会事務局のメールアドレスの変更について

平素は事務局運営にご協力いただき、ありがとうございます。メールサーバー増強ならびに問い合わせ業務効率化の目的から、2021年3月1日より以下のとおりメールアドレスを変更します。事務局のメールアドレスを登録されている方は新アドレスへの変更をお願いします。ドメインも「com」から

「org」に変わりますのでご注意ください。

旧:jam@soubun.com (2021年4月1日以降は着信できなくなります)

新:(会員からの問い合わせ専用)

jam-member@soubun.org

(会員以外からの問い合わせ全般ならびに理事会関連) jam-info@soubun.org

年会費支払方法について(今年度より「クレジットカード払い」による納入も受け付けます)

2021年度の事業開始(*1)にともない、年会費を「郵便振替」にて納入予定のみなさまに「郵便振替払込用紙」を発送しました。「銀行口座自動振替」を選択されている方には、3月下旬に引き落とし時期等をメールでご案内をいたします。

また、今年度より「クレジットカード払い」による納入も受け付けます。納入の手順は次のとおりです。オンラインでいつでもどこでも納入可能な「クレジットカード払い」をどうぞご利用ください。

[クレジットカード払いによる納入方法] *3月1日より導入予定

A) 会員管理システム「SMOOSY」にログイン
<https://jam.smoosy.atlas.jp/mypage/login>

※ログインIDは会員管理システムに登録しているメールアドレスです。(*2)

B) マイページ内「請求・入金情報」の「操作」欄にある「支払方法変更」のリンクをクリックし、支払方法を「クレジットカード決済」に変更します。

C) マイページに戻ると「請求・入金情報」の「操作」欄に「オンライン決済」のリンクが出ますのでクリックします。

D) クレジットカード決済システム (ROBOT PAYMENT) のサイトに遷移します。クレジットカード情報 (カード番号、有効期限、所持人氏名等) を入力後、内容を確認し「送信」ボタンを押してください。

E) 決済完了後、数分経過すると入金状況の表示が「入金済み」に変わります。(*3)

(*1) 本会は2月1日から翌年1月31日までが事業年度となっています。

(*2) 以下のいずれかに該当する場合は、事務局までメールでお問い合わせください。

- ・メールアドレスを登録していない
- ・メールアドレスを変更したい
- ・メールアドレスを登録しているかわからない

〈メール問い合わせ先〉

jam-member@soubun.org

〈問い合わせ方法〉

事務局には日々多くのメールが到着するため以下の内容のみご連絡ください。本文は不要です。

いただいたメールのご返信はいたしませんのでご了承ください。なお、会員様ご本人からのメールと判定できない場合はご対応いたしかねます。

〈件名〉

新規：メールアドレス新規登録 (氏名〇〇〇〇, 会員番号〇〇〇〇, 所属先〇〇〇〇)

変更：メールアドレス変更 (氏名〇〇〇〇, 会員番号〇〇〇〇, 所属先〇〇〇〇)

不明：メールアドレス登録 (氏名〇〇〇〇, 会員番号〇〇〇〇, 所属先〇〇〇〇)

(*3) カード情報の入力相違、与信エラーにより決済できない場合があります。決済エラーの原因は各カード会社に直接お問合せください。(事務局ではお答えできません。) 決済できなかった場合は、郵便振替で納入ください。すでに郵便振替で納入済みの場合は、クレジットカード払いで重複入金しないようご注意ください。(郵便振替による納入の場合、会員管理システムの入金反映まで日数を要しますのでご了承ください。)



一般社団法人
日本助産学会ニュースレター

No.94 2021年1月発行 (Web版 No.19)

発行：一般社団法人 日本助産学会
〒116-0011 東京都荒川区西尾久7-12-16
創文印刷工業株式会社 内
TEL: 03-3893-0111 FAX: 03-3893-6611

E-mail: (会員専用) jam-member@soubun.org
URL: <http://www.jyosan.jp/>
代表者: 片岡 弥恵子